

神奈川県水産技術センター相模湾試験場

定置網漁業を支援する研究

【神奈川県の定置網漁業】

相模湾は、沖に伊豆諸島を望み、黒潮の恵みを受け、また、水深1000mを越える深さを持つなど、豊かな海洋条件がそろい、回遊魚をはじめとする水産資源に恵まれています。特に定置網漁業は全国有数の規模、内容を誇り、神奈川県の沿岸漁業生産量の70%を占めています。その歴史は、江戸時代にまで遡り、昭和30年代までは、ブリ漁業で全国にその名を轟かせていました。今日でも、アジ、サバ、イワシを中心として、皆様の食卓を彩る魚たちを、毎日水揚げして食料の安定供給に貢献しています。大型の定置網は網の水深60m、長さ400mに達し、総工費は5億円を越えます。県水産技術センター相模湾試験場では、定置網の急潮(早い流れ)による被害を防止する為の対策実験等を進めています。

【回流水槽を使った定置網模型実験】

漁具実験用の回流水槽としては、日本トップレベルの規模と性能を備えています。定置網の急潮(早い流れ)による被害を防止する為の対策実験の他、生簀網の網成り改良、小型底曳網の稚魚を逃がす改良、さより船曳網の改良実験を行っています。実物では、観察できない海中での様子が良く分かるので、漁具等の改良に大変役立っています。

【漁具の安全管理の為の定期的な側張り交換】

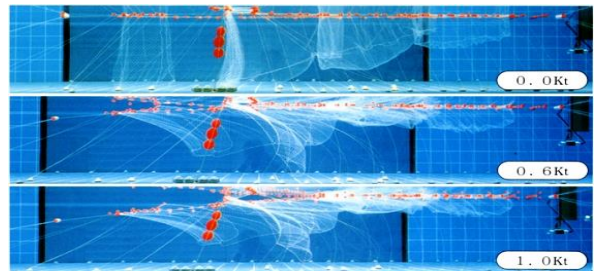
定置網は長期間、海中に敷設するため、命綱である側張りのワイヤーロープを定期的に交換して、漁具の安全管理を行います。相模湾試験場では、回流水槽実験や潮流調査等より、数年での定期的交換を推奨しています。

【自航式水中カメラ:ROV (Remotely Operated Vehicle)を使った調査】

相模湾試験場では、この「ROV」を使って、定置網の碇(いかり)やロープ、海中の網の状況、海底の障害物の存在などの調査のほか、藻場の分布状況や魚礁の設置状況などの調査を行っています。



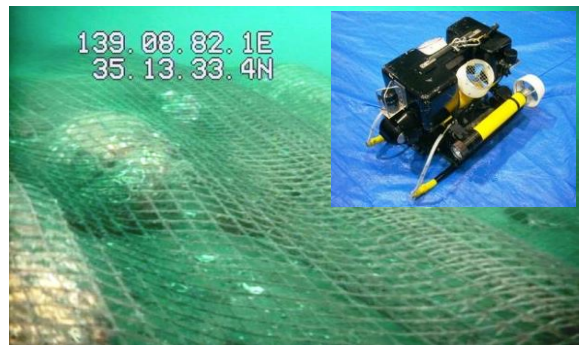
【小田原市米神漁場(小田原市漁協)】



【定置網の模型網実験の様子】



【定期的に行われる側張りの交換作業(小田原市漁協)】



【定置網の真下で確認された岩石とROV】

【お問い合わせ先】

神奈川県水産技術センター相模湾試験場

住所 神奈川県小田原市早川1-2-1 電話 0465-23-8531